

名称	富士電機フィールド技術研修所
場所	東京都日野市富士町1番地
研修所の概要	<p>富士電機の東京工場内にある「フィールド技術研修所」は、主にフィールドサービス技術者（お客様先で製品を納入・据付・試験調整・保守・メンテナンスを行う技術者）向けに専門技術教育および安全教育を行っている。</p> <p>今回は安全教育の一つである「危険体感教育」を紹介する。</p>
研修内容	<p>「危険体感教育」は、電源短絡・過熱、漏電などの電気に関する項目、高所に関係する安全带やヘルメットの重要性、機械への巻き込まれの危険性など11設備で構成されている。さらに、VR（Virtual Reality:仮想現実）を活用し、事故・災害の危険性を疑似体験できるコンテンツも用意されている。従来、安全教育は座学が中心であったが、この危険体感教育は実体験を通じて危険に対する感受性を磨き、危険に対する予知・予測能力を向上させることを目的としている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>電源短絡・電線過熱体感</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>漏電遮断体感</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>落下衝撃</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ヘルメットの重要性</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>巻き込まれ、はさまれ体感</p>  </div>

VR を活用したコンテンツ

「高所からの墜落」、「開口部からの転落」及び「感電」の3種がある。今回は「高所からの墜落」を体感した。このコンテンツでは、6階の器材搬入口から外の足場に移る動作をするもので、実際の建屋や空・景色などがリアルに再現されている。落下する感覚に「恐怖」すら覚えた。



今後の展開

現状、受講しているのはフィールドサービス技術者が多いが、今後は他部門の社員の受講率を上げるよう、さらに周知していくとのこと。富士電機は現場安全に徹底的にこだわっていることを認知してもらおうと同時に、海外にある関係会社のメンバーにも日本での安全品質向上の取り組みを知ってもらうための取り組みも始めている。

設備やコンテンツの充実を図るため、講師は電機メーカーをはじめ異業種メーカーとも教育についての情報交換を始めており、今後も積極的に取り組んでいきたいとのこと。

ここもお勧め

富士電機は、1923年（大正12年）古河電気工業とシーメンスの合弁会社として発足した。従って、足尾銅山の「安全専一」を受け継ぐ企業であり、その歴史や現在の事業内容を同所にある「東京工場本館展示室」で見ることができ

https://risk-sense.net/wp/wp-content/uploads/2013/10/I_その他3足尾.pdf



見学日

2019.2.27 三谷（記）、写真：大内、三谷